

とうきょうすくわくプログラム活動報告

令和7年2月

妙福寺保育園 3歳 すみれ組

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉 光

〈テーマの設定理由〉

戸外で遊ぶ中で、砂場や汽車の中でままごとをしていることが多くあったが、ある日「日の当たるところで遊ぼう」と友達を誘う姿があり、身近に日の暖かさを感じていると感じ、興味関心をさらに広げたいと考えたため。また本当は身の回りは暗く、太陽があるから明るいこと、夜は電気があるから明るいことをもっと自然で味わいたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

1月第4週 電気を消しておやつ、園庭で日向ぼっこ

2月第1週 氷の実験、園庭でおやつ

2月第2週 保育ウェブ、園庭で日向ぼっこ

2月第3週 カラーセロファン、色水ボトル、影遊び、シャボン玉

2月第4週 境内へ光探し、暗いところ明るいところ探し、干し芋作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭の日の当たるところにレジャーシートを敷いて置き、日の暖かさを感じられるよう環境設定をした。透明のボトルに色水を入れて太陽に当て、日の明るさを使って遊べるようにしたりカラーセロファンを丸・三角・四角に切った物を用意し、子どもがそれぞれ使いたいと思った時に使えるよう準備したりした。また影に気づく子が少しずつ増えてきたときに、影の絵本を読み興味を深めることが出来るようにした。

〈用意したもの〉

レジャーシート、シャボン玉、R1 ボトル容器、カラーセロファン

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

部屋の電気を消し薄暗い中でおやつを食べた（子どもには電気がつかなくなってしまったと話した）。園庭で日向ぼっこをしてシートの上で座ったり寝ころんだりしながら日の暖かさを感じた。「暗いところは寒い」と気づく子がいた為、日陰で氷ができるかの実験をプールサイドで一晩掛けて行った。太陽の明るさだけでなく車のライトや部屋の電気の明るさにも興味を示す子が増え、「ひかり」のワードから保育ウェブを行った。境内に行き明るいところ、暗いところ、暖かいところ、寒いところ探しをした。色水作りでは色水のボトルを太陽に当て色や気泡を見て楽しんだ。シャボン玉では異年齢での関わりも見られた。

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関り〉

室内で電気を消しておやつを食べると、「電気使いすぎてつかなくなったのかな?」「朝から電気つけたままだったからつかなくなったんだよ」などと発言していた。薄暗い中で食べていたため、友達や保育者の表情が読み取りにくく不安気な子どもの様子も見られた。「部屋は暗いけど、みんなの顔は見えるね」と保育者が話をすると、「今は外が明るいからみんなの顔

が見えるんだよ」と気が付く子がいた。そこで「今は外が明るいけど、夜になって外が暗くなったらどうなるかな」と話すと「お化けが出るよ」と言っていた。3歳児ならではの考えや発想である。電気がつくようになった事を話し、順番に電気をつけると、明るくなった事に喜び安心する子が多くいた。部屋の中に光が入らないと暗いこと、電気がないと暗いことを子ども自身で体感した。日向ぼっこでは、日の暖かさを感じる心地よさを知り、その後の遊びでも暖かいところを探して遊ぶ姿が見られた。氷作りでは、今の時期、夜は暗く寒いことを気付いてるため、日陰の多いプールサイドで実験を行った。子どもがそれぞれ好きな皿に水を入れ日陰のところに置いて翌朝どうなっているかを子どもと見に行った。水が凍っているのを見て喜ぶ姿だけでなく、「夜は寒いから凍ったのかな」「夜は真っ暗だから」と考えて発言していた。

「夏は暑いからアイスは溶けちゃうんだよ」と発言する子がいた為、この氷をそのまま置いておくとうなるのかを、それぞれが暖かいと思うところに置いて実験を行った。夕方見に行くとうけており、「太陽が暖かいからだね」と気が付いていた。また、中には溶けた水が蒸発していることに気が付く子がおり、「太陽さんが飲んじゃったんだね」と言っていた。活動を行っていく中で、「これを太陽に当てたらどうなるかな?」「太陽に当ててみたい」とやってみようと思うことを自分で試す姿が増えていった。境内では明るいいところを探しに行くと日が当たっている石に触れ温かさを感じていたが「ずっと触っていると冷たくなってきた」と言い、実際に触れて変化を感じる事ができた。また境内の暗いところでお化けを探しに行くと、「あそこ暗いからいるかも」と発言をしたり、「ここは暗いし寒いから近くにいるかも」などと友達や保育者に話す子がいた。シャボン玉では、異年齢の子も一緒に多くの子が集まり、さくら組の子が「シャボン玉は透けているから綺麗」「反射して綺麗なんだよ」とすみれ組の子に話す様子が見られ異年齢での関わりが見られた。異年齢の友達との関わりの中で刺激を受け知識も広がっていった。干し芋では子どもたちでさつまいもを切り戸外で干した。食べる時には光に当て芋の繊維が透けている様子や日に当てて温める食べる様子も見られた。



活動を行って行く中で、光っているものに対する反応が早く、見つけると保育者や友達と共有し一緒に見て楽しむ姿が見られるようになった。戸外で遊んでいる時だけではなく、室内で遊んでいる

際に電気に反射して光っている玩具や、ピタゴラスを太陽に当ててみたいと言う子もいた。子どものアンテナが光に向いていると感じた。

また様々な活動をし、興味関心や知識がついてくることで子ども自身で、身の回りは本当は暗く太陽があるから明るく、夜は電気が明るいということを感じる事ができた。



5. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

光の活動を通して、子どもの興味関心が広がってくると、子どもの中で「なんでだろう」という疑問が生まれそこから発見に繋がり興味や知識が広がっていく様子が見られた。また子どもへの声掛けによって、子どもの中で意識が変わったり、興味が向いたりするため言葉選びの難しさを感じるが、子どもが「なぜ?」「どうして」と心が動くことが大切な為、その子どもに合わせ寄り添った声掛けは大切であると改めて感じた。また保育ウェブを行うと、子どもが今どこまで興味や関心、知識が広がっているのかなどの子どもの考えが分かりやすく、そこから活動を考える事ができた。また普段はみんなの前で話す事が苦手な子も、意見を言う姿や、友達の意見に頷き共感する様子が見られた。環境設定の反省として、透明の容器が全員分の数がなかったことでその時に作れない子がいた。余裕をもって準備し、子どもがやりたいと思ったときにいつでもできるよう準備をしておくべきであると思った。

